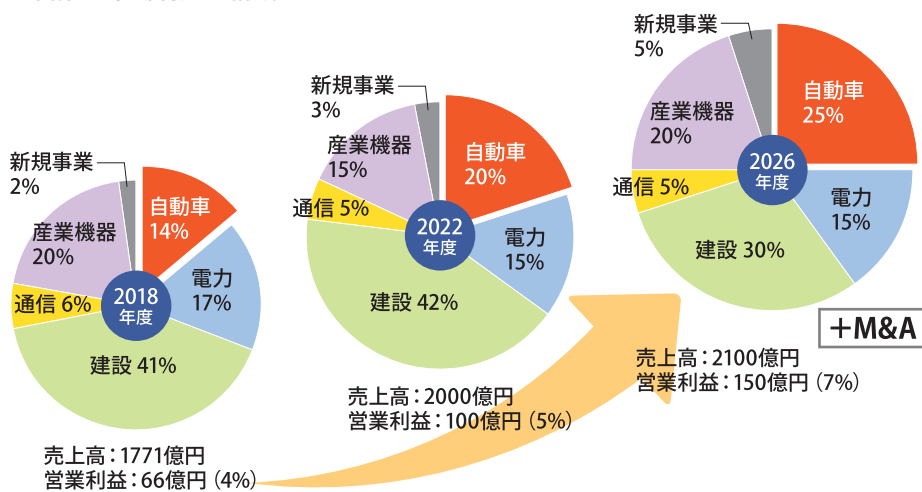


■目指す市場別売上構成



成長分野の自動車のポートフォリオ拡大

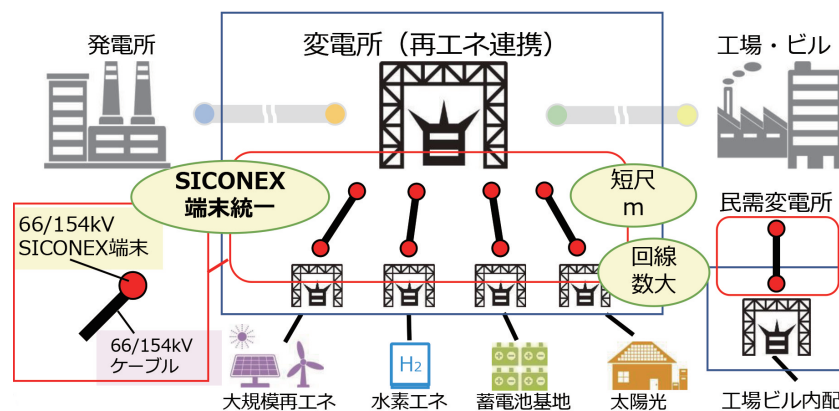
同社の18年度の市場別売上構成比率では、建設、電力のミ合金や銅合金などを使った自動車用電線などを伸ばしていく。また、インダストリー分野では医療において同社の製

品が様々な機器に活用されており、今後は内視鏡やカテーテルなど細くて強い電線を使った製品などを伸ばしていく。

国内インフラ事業が6割弱を占めている。足元においては安定収益をもたらす基盤事業ではあるが、今後は中長期的な成長分野である自動車や産業機器への投資を行い、そのポートフォリオを上げていく計画だ。「国内インフラが基盤事業であることは当社の強みではあります。が、逆に国内経済が悪くなってきたときにカバーしきれなくなる。事業のポートフォリオをあるべき形にし、

■「SICONEX®」を中心とした「つなぐ」新ビジネスモデル

●分散化電源の連携変電所の新設・増設により増加



▲電力用機器部品「SICONEX®」

かし一方でこの分野は大手3社が強く、さらに海外製品との競争も厳しいことから一時

は赤字を計上するなど収益力の面でネックとなっていた。また、国内市場も安定しているといえども中長期的に見て成長事業ではないことから、同社は3年ほど前から大きくビジネスモデルを転換。強みである独自の高性能電力部品「SICONEX®」（サイコネットス）を活用した事業を推進し収益力の強化を図っている。

「SICONEX®」は、変電設備に高圧ケーブルを接続する終端接続部品（端子Ⅱがいし）の新しいタイプ。従来の接続部品は磁器を使用し、内

強みの「無酸素銅」国内唯一の設備で製造

一方、大手3社に比べて大きく出遅れている自動車向け分野では、強みの「無酸素銅」を強化していく。

無酸素銅とは酸素をほとんど含まないピュアな銅のこと。同社の無酸素銅は純度99・99%であり、高導電率で加工性に優れていることから、自動車分野をはじめ様々な分野で採用されている。なかでも電気自動車やハイブリッド車のモーター等での需要が継続的に拡大している。

部に絶縁のための油を満たした構造だが、磁器のため重く、地震の揺れで破損すること絶縁の油が漏れて火災につながるなどの問題が東日本大震災でも発生していた。これに対し、「SICONEX®」はプラスチック製の小型・軽量・高施工性タイプであり、変電所の工期を平均約3分の1程度、短縮ができる。絶縁に油を使わないので安全性も高い。「超高压ケーブルは歴史的に見ても技術開発に力を入れた事業であり、これができるのが電線屋の技術なのだといわれます」（同氏）

うプライドがありました。しかし最近では競争が厳しく、売上は上がるけど利益が残らない。当社にとっての電力事業は何かを検討し、この部品をたくさん使って変電所の工期を短くすることにメリットを見出しました。最初は民間プラントで使用していただき、今では全電力会社にもベックインして使っていただいています。今後、再生可能エネルギー等の分散化電源の活用が見込まれており、この部品を活用した変電所新設や増設などの需要が大きく伸びると思われまます」（同氏）



▲無酸素銅を製造する三重事業所



▲無酸素銅

さらに新規事業においては、モビリティ、インダストリー、デジタルトランスフォーメーションの3本柱を展開している。モビリティ分野ではアル

経済のリズムの違う産業を入れていきたいと思っています」（同氏）

具体的には、自動車分野の比率を現在の14%から22年度には20%、さらに26年度には25%に拡大させ、全体のバランスに配慮した事業構成を目指す。

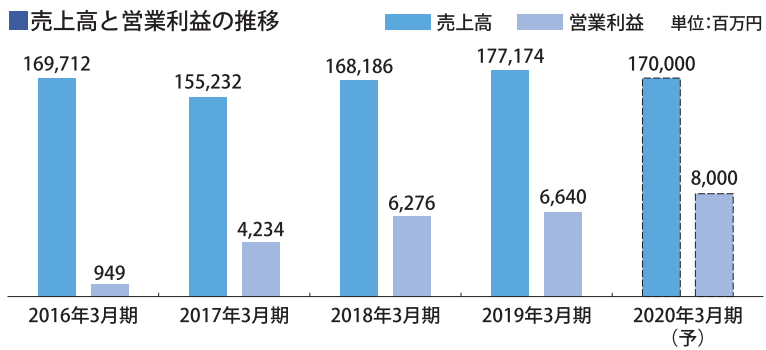
現在の中期経営計画は22年度を目標に、売上高2000億円、営業利益100億円、ROE10%以上を掲げる。その先の26年度に向けては、売上高2100億円、営業利益150億円を目指しながら、M&Aによるさらなる企業価値向上を視野に入れている。営業利益率は18年度の4%か

ら22年度5%、26年度7%に拡大させる。

「既存事業のテコ入れにより利益を改善し、次のステップとしてM&Aをプラスした成長を目指しています。電線という古臭いイメージがありますが、ビジネスモデルが変わり、従来の電線メーカーから大きく変わっていることを投資家の皆さんに発信していくと考えています」（同氏）

今後は創業84年の歴史で培った技術力を活用し、新しい領域における高付加価値製品とソリューションを開発してグループの可能性を創出していく。

■売上高と営業利益の推移



株式データMEMO

直近株価	1,010円 (20.3/31終値)
昨年来高値	1,583円 (20.1/7)
昨年来安値	579円 (19.1/4)
時価総額	311億円
PER	6.3倍
PBR	0.76倍
配当利回り	1.49%
決算	3月

2019年3月期 連結業績

売上高	1771億7400万円	前期比 5.3%増
営業利益	66億4000万円	5.8%増
経常利益	56億300万円	14.5%増
当期純利益	45億6900万円	22.3%増

2020年3月期 連結業績予想

売上高	1700億円	前期比 4.0%減
営業利益	80億円	20.5%増
経常利益	73億円	30.3%増
当期純利益	48億円	5.0%増

値動き